武蔵大学柔道部会報

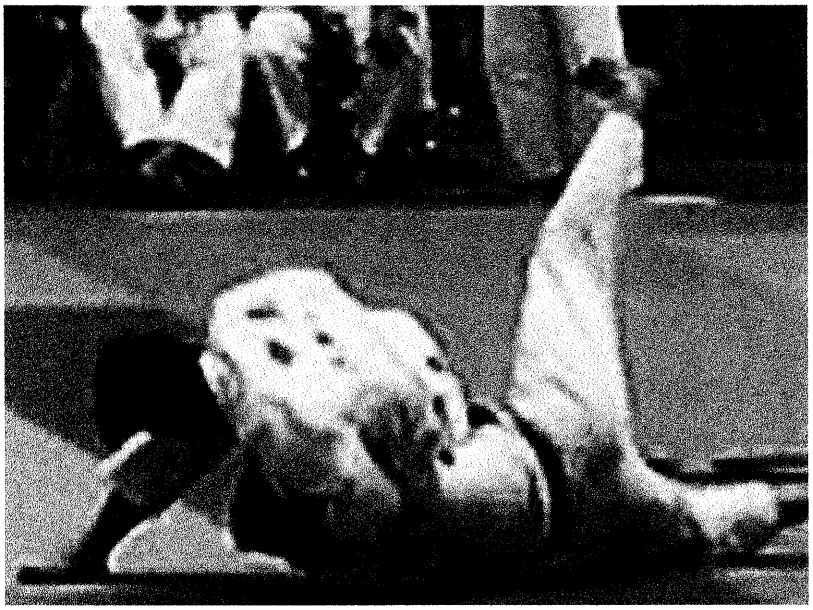
第16号
令和2年2月1日
東京都練馬区
豊玉上1-26-1
武蔵大学柔道部
OB会発行

全日本学生柔道大会に連続出場成る

武蔵大学柔道部は、令和元年5月26日の東京学生柔道優勝大会において、全日本に進出するためのベスト19に勝ち上がり、昨年に続き全日本学生柔道優勝大会の出場を果たした。

全日本学生柔道優勝大会は同年6月22日に日本武道館で行われ、武蔵大学は1回戦に東海地区代表の愛知大学と当たり、残念ながら7対0で敗れ去った。

「全日本で1勝を、そして東京学生一部昇格」が今後の武蔵大学柔道部の悲願となった。



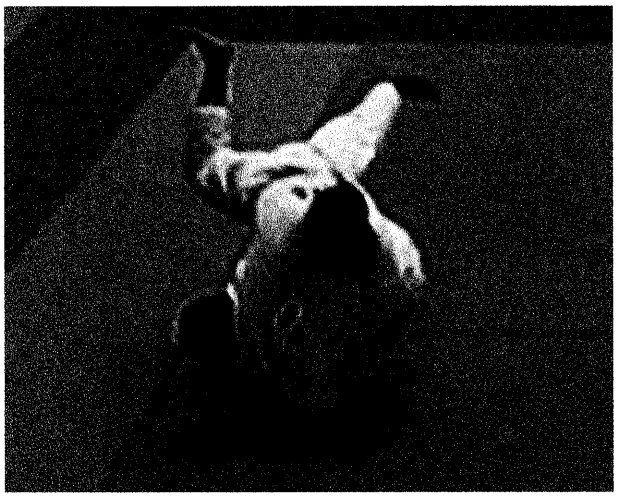
全日本学生出場を賭けての一橋大戦。中堅・中島が合せ技一本で勝利を決める。

令和元年5月26日、日本武道館で第68回（男子）東京学生柔道優勝大会が開催された。

この大会の上位19校が全国学生柔道優勝大会に出場できる。昨年は19校目の出場権を大正大学と争い、本戦では決着がつかず代表戦で勝利、武蔵大学柔道部が初めて全国大会出場を果たした。

今年の1回戦は優勝候補の国士館大学（国士館大学は今大会の決勝戦で東海大学と対戦。2対0で勝利し、優勝した）。

対戦前から選手は名前負けし、固い動きで本来の力が発揮出来ずに終わってしまった。



対国士舘戦、次鋒・飯塚（下）は袖釣込腰で相手を崩すが惜しくも不十分。

組み負けし無理な体勢からの技の仕掛けや場外際での対応力など格の違いがでて、次鋒飯塚の袖釣り込み腰や三将岩田の健闘はあったが試合結果は0対7の完敗ではあった。

1回戦敗退の16校のうち3校が全日本学生柔道優勝大会に出場できる。出場するためには、各校はここから3勝しなければならない。

出場権獲得のための1回戦は亜細亜大学。亜細亜大学は一部昇格を目指し、大型選手を集め強化を進めている難敵である。

先鋒の大山（翔）は、健闘したが大外刈りの技ありを取られ優勢負け。

次鋒の山田は、重量級の相手と引き分け。

五将・林は、自分の2倍近い相手を早い動きと積極的な攻撃で相手に技を出させず、相手のスタミナがきれてきたところ、背負い投げで技ありを取り優勢勝ち。

中堅の中島は、体格差のある相手と真っ向勝負し、内股をうけ一本負け。

三将の大山（真）は、緊迫した雰囲気のなかタイミングの良い足払いで一本勝ち。亜細亜大学に先行され重苦しい雰囲気のなか、この勝利で武蔵のムードは一気に盛り上がった。

副将の岩内は、同じ73kg級の相手を先手・先手と攻め、大外刈りを決め一本勝ち。

大将の飯塚は、この勢いに乗り独特の試合運びで相手を圧倒し、袖釣り込み腰を決め一本勝ち。

結果は4対2で武蔵の勝利ではあったが、決して楽な試合ではなかった。選手各自が精神的に強くなったと思える試合だった。

2回戦の相手は、明治学院大学。先鋒・鈴木、次鋒・林、五将・大山（翔）とよく粘り、冷静に試合を組み立て、三試合とも技あり優勢勝ち。ムードに乗った時の武蔵は強い。中堅の山田もこのムードに乗って一本勝ち。三将・中島も積極的に攻め、相手の消極的な態度に指導が続き反則勝ち。

副将・岩内は、袖釣り込み腰で技あり、抑え込みで合わせ一本勝ち。

大将の飯塚も払い腰で一本勝ち。結果7対0で勝利した。

3回戦は、大東文化大学。この試合に勝てば全日本の出場が決定する。もし、敗れると最後の一枠を別ブロックの2位と争うことになる。

大東文化大学は一部から二部に降格はしているが、一部復活を目指し、強化が進んでいる。

1回戦で専修大学に2対2の内容差で敗れてはいるが、強敵である。敗者復活2回戦で昨年までの一部校である駒沢大学に5対2で勝利している。

先鋒・鈴木は、体格の大きな相手に対し肩車等で先に仕掛けたが決め手なく引き分け。

次鋒・中島は、小外掛けで一本勝ち。

五将の清水は、大きな相手に組み負け、思うような技が出せず、内股で技ありをとられ、そのまま抑え込まれて合せ技一本負け。

中堅・飯塚、三将・岩田は健闘したが、技ありを取られた後とりかえせず優勢負け。

ここまで1対3。副将、大将に期待がかかった。二人勝てば内容差で勝利となる。

副将の大山（翔）は、プレッシャーの中、攻めるも決め手なく引き分け。

この時点で武蔵の負けが決まった。

大将の梶は、巨漢の相手に闘志をむき出しに向かっていくも、気持ちと体が空回りして自分の柔道ができず相手の払い腰を受けきれず一本負け。

大東文化大学戦は、1対4で敗れた。

全日本の出場権獲得をかけて最後の1枠を争う相手は一橋大学。

最終戦は武蔵の選手はリラックスし、自分の柔道を展開し7対0で大勝した。

平成の最後と令和の最初の年に、2年連続で全日本学生柔道優勝大会の出場権を獲得した。

令和2年も全国大会2年連続出場と全国大会1回戦の勝利を目指し一層の努力を積んでほしい。期待しています。

（土屋直樹／24回）

東京学生柔道大会の結果

（令和元年5月26日　於日本武道館）

◆2回戦
武蔵大学0・7国士舘大学
田村政雄●大外刈○中西一生
飯塚結貴●袖釣込腰○友清光
大山真弥●小外刈○大淵泰志郎
山田侑弥●払い腰○山下魁輝
岩田涼介●合せ技○岩渕晃大
清水英輝●背負投○仲佐怜優
梶　友汰●合せ技○竹村昂大

〈全日本学生柔道優勝大会出場権獲得トーナメント〉
◆1回戦
武蔵大学4・2●亜細亜大学
大山　翔●優　勢○隈部侑希
山田侑弥×引　分×阿部壮太郎
林　秀哉○優　勢●馬場剛士
中島丹悟●内　股○池田健生
大山真弥○送足払●斉藤正瑚
岩内雄史○大外刈●山下拓斗
飯塚結貴○袖釣込腰●鈴木魁人
◆2回戦
武蔵大学7・0明治学院大学
鈴木　凛○優　勢●國松勇輝
林　秀哉○優　勢●中野大地
大山　翔○優　勢●竹　裕駿
山田侑弥○隅返し●荒巻政二
中島丹悟○反　則●吉富　颯
岩内雄史○合せ技●長谷川大輔
飯塚結貴○払い腰●田島　駿
◆決勝戦
武蔵大学1・4大東文化大学
鈴木　凛×引　分×別府弘太朗
中島丹悟○小外掛●宇賀神圭太
清水英輝●合せ技○高橋　颯
飯塚結貴●優　勢○岩本修武
岩田涼介●優　勢○戸羽優弥
大山　翔×引　分×木戸裕太郎
梶　友汰●払い腰○北潟大地

〈全日本学生柔道優勝大会出場決定戦〉
武蔵大学7・0一橋大学
鈴木　凛○合せ技●諏訪部仁
林　秀哉○一本背負●金丸真翔
山田侑弥○大内刈●板橋秀英
中島丹悟○合せ技●椛澤尚樹
大山真弥○大外刈●山岸優太
岩内雄史○背負投●河邉　藍
飯塚結貴○反　則●樋口智之

全日本学生柔道優勝大会の結果

（令和元年6月22日　於日本武道館）

◆1回戦
武蔵大学0・7愛知大学
林　秀哉●合せ技○田中大地
山田侑弥●小外刈○磯部昂佑
中島丹悟●合せ技○田中翔太
鈴木　凛●合せ技○中尾武史
大山真弥●背負投○荘田巧登
岩内雄史●内　股○長清晃之輔
飯塚結貴●一　本○杉浦冬唯

この大会は、東京代表の東海大が決勝戦で関東代表の筑波大を3対1で破り、優勝に輝いた。

四大学柔道優勝大会 台風のため中止

10月13日、成蹊大学で開催予定の67回四大学柔道大会が台風の影響で中止になりました。66回まで連続して開催していたのが、学生の話し合いでいきなり中止になったのが残念です。

ちなみに第70回四大学運動競技大会種目で中止になったのが柔道のみです。延期など考慮できなかったのか、四大学運動競技大会に影響を与えることが柔道部だけの判断で決めていいのか、今後に課題を残しました。

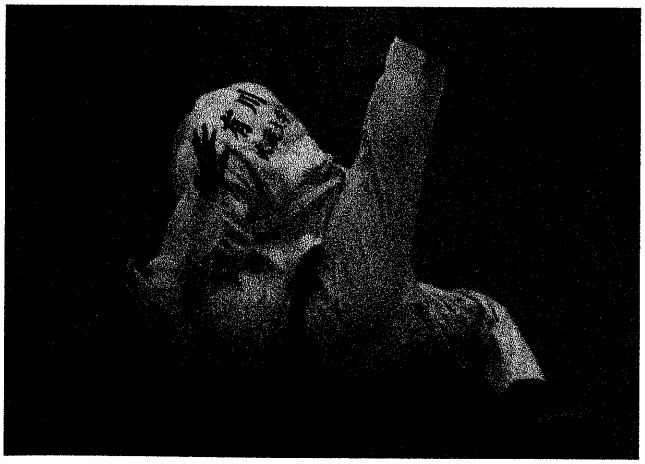
（鈴木満也／20回）

東京学生柔道二部優勝大会 惜しくも決勝進出ならず

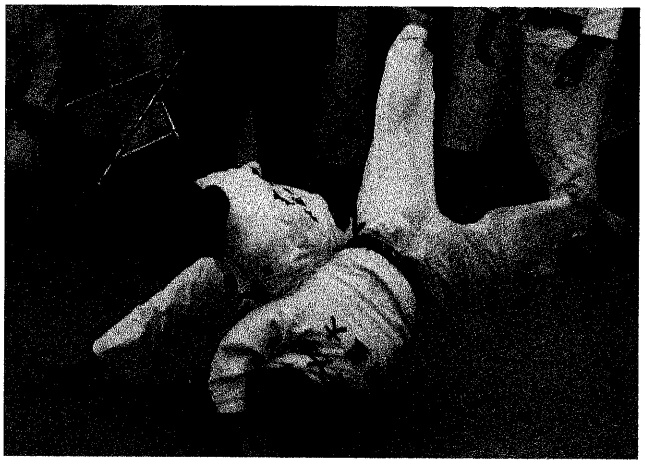
第61回東京学生柔道二部優勝大会が令和2年11月17日に東京・春日にある講道館で行われ、わが武蔵大学は快進撃を続けたが準決勝で大東文化大に敗れて敗退。

なお、4年生の林秀哉君に優秀選手賞が授与された。

◆1回戦
武蔵大学4・2●亜細亜大学
林　秀哉○優　勢●隈部侑希
中島丹悟×引　分×阿部壮太郎
鈴木　凛●反　則○山下拓斗
山田侑弥●優　勢○池田健生
大山　翔○合せ技●荻野朋晃
飯塚結貴○反　則●吉岡　捺
岩内雄史○合せ技●鈴木魁人
◆2回戦
武蔵大学○5・1●明星大学
鈴木　凛○優　勢●佐藤凱也
山田侑弥●一本背負○斉藤充秀
中島丹悟○体落し●五十嵐貫彦
吉澤　力×引　分×奥山昇吾
有川涼太○払　腰●勝又輝貴
岩田涼介○横四方固●山本浩太
田村政雄○内　股●岡安雅樹
◆3回戦
武蔵大学○2・2●東京農業大学
（武蔵大の内容勝ち）
岩内雄史×引　分×尾美謙介
山田侑弥×引　分×矢野修弘
中島丹悟×引　分×菅原明人
岩田涼介○上四方固●三浦真温
大山　翔●袈裟固○原　紳悟
有川涼太●優　勢○岡田優太郎
林　秀哉○合せ技●阿部拓海
◆準決勝
武蔵大学●1・5○大東文化大学
岩内雄史○優　勢●新井　翔
山田侑弥●優　勢○梅野章大
中島丹悟●内　股○池田龍平
岩田涼介●反　則○戸羽優弥
大山　翔●小外掛○高橋　颯
有川涼太●背負投○宇賀神圭太
林　秀哉×引　分×岩本修武

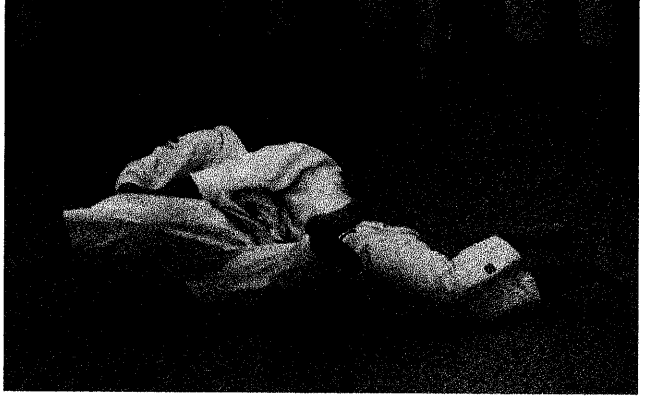


対明星大戦、1年生有川は払い腰で一本を取る。



対明星大戦、5将・中島は体落しを決めて一本勝ち。

対東京農大戦、大将・林（右）の合せ一本で武蔵の逆転勝ち。



対東京農大戦、中堅・岩田（右）は寝技で最初の1勝を挙げる。

武蔵大学柔道部とわたし——現役部員の思い

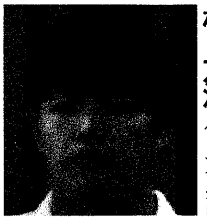
林 秀哉（花咲徳栄高／4年）

今年度は全日本学生出場、二部大会3位と好成績で終えることができました。学生生活最後の年だったということもあり、いつも以上に気合が入り試合に臨むことができました。悔いなく引退することができたので非常に嬉しく思います。

清水英輝（日本大学高／4年）

2019年を振り返り、柔道部としては2年連続全日本学生に団体で出場、二部大会ではおよそ40年ぶりとなる準決勝進出と、大変実りのある1年になったのではないかと思います。

しかし、現在の1、2、3年、また来年入部してくる新1年生がこれまで以上に努力をすれば、さらにいい結果を残すことができると思いますので、OBの皆様、これからもご指導のほどよろしくお願いします。



梶 友汰（日大三高／4年）

柔道人生初めての大きい怪我などで思いどおりにいかない4年間、柔道人生の締めくくりでした。ですが、この4年間で得たものは多くあると感じています。最後まで柔道部として生活することの価値は、最後までやった人間しかわからないものだと思います。

中島丹悟（世田谷学園／3年）

私は柔道部の主将として部の組織化を図り、チームワークの向上に努めました。それにより2年連続全日本学生柔道優勝大会に出場することができました。

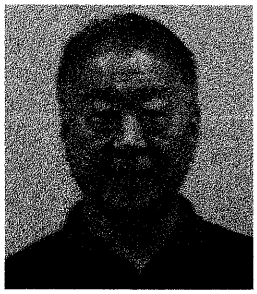
また昨年の11月中旬に行われた二部大会では、40年ぶりにベスト4に進出することができました。

今後はこの経験を活かしてさまざまなことに挑戦していきたいと思います。

柔道部OB・OGの皆様へ

武蔵大学柔道部OB会々長

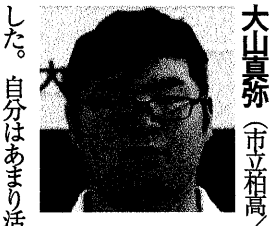
松田 完（たもつ）（19回）



昨年も学生たちはよく頑張ってくれました。蒔山監督はじめ塚崎コーチ、小林コーチのご尽力があったればこその成果でした。四大学新人戦の優勝、秋の本大会は中止（台風のため）でしたが連勝記録更新中であります。

さらに大きな活躍がありました。前年に続き全日本学生柔道優勝大会に出場できました。そして今年の最終戦、東京学生二部優勝大会ではこれまで果たせなかったベスト4に入り、堂々かつ3位入賞を果たしたことです。これは皆様の応援があったればこそであります。感謝感激ここに極まりでした。今年はオリンピックの年でもあり、柔道熱はますます上昇すると思われます。本年の活躍を祈るとともにOB・OGの皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

今年の12月5日には武蔵大学柔道部創部65周年記念祝賀会を開催する予定であり、会場は大学8号館イベントホールを予定しております。詳細決定次第ご連絡申し上げます。



大山真弥（市立柏高／3年）

今年度は、昨年に引き続き全国大会に出場することができました。自分はあまり活躍できませんでしたが、4年生の先輩やチームの皆と1つになって試合をすることができたと思います。また、東京二部大会でも3位という記録を残すことができました。

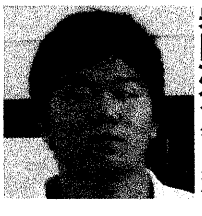
自分自身のこれからの目標として、怪我をしない体をつくり、来年もう一度全国大会に出られるように日々努力していきたいと思います。

山田侑弥（日大三高／3年）

3年生になり、少し責任感が出てきました。まず目標としては2年連続全日本学生出場と四大大会の優勝、二部大会の優勝を掲げてました。すべて達成することはできなかったのですが、蒔山監督と塚崎コーチの支えがあり今年、来年のための土台づくりができたのではないかと考えます。今年は最後の1年です。できる限りの私の知識を後輩たちのためにアウトプットして柔道部に貢献したいと思い励みます。OBの方々、1年間の声援ありがとうございました。

飯塚結貴（市立習志野高／2年）

昨年は2年連続で全日本学生に出場でき、また二部大会でも3位に入ることができました。しかし個人戦では不甲斐ない結果に終わりました。今年も引き続き全日本学生に出場という目標をもちつつも、個人戦で全日本学生にでることや、二部大会で3位以上になるという新たな目標を掲げて頑張りたいと思います。



岩田涼介（市立柏高／2年）

私は、昨年5月に行われた東京学生柔道大会2回戦の国士舘戦に出場させていただきました。結果としては一本負けをしてしまいましたが、自分の課題が明白になった試合でした。また、私はその試合を通して自分の目指す柔道スタイルを見つけることができました。もう2年生も終盤になってしまい試合の数もあと数えるほどしかなくなってしまいました。残りわずかな試合、一つ一つに向けて日々努力していこうと思います。今後ともよろしくお願いします。

大山 翔（埼玉栄高／2年）

昨年の試合は個人戦、団体戦においてもチーム全体に迷惑をかけてしまい貢献することができないことが多かったので、副部長として今年は少しでもチームに貢献できる試合をするように努力していきたいと考えています。

坂上真悟（都立成瀬高／1年）

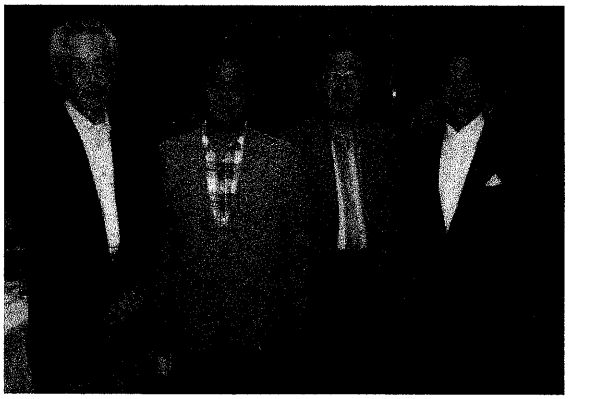
武蔵大学柔道部として活動した1年は実りの多いものでした。高校での稽古では部員が3人ぐらいしかいないときもあり、練習ができないこともありました。ですから、武蔵大学柔道部には強い先輩がいて、全国大会に出るという目標があり活動していたので、私も頑張らなくてはならないと強く感じました。そして、楽しい1年でした。しかし、私は精神的にも技術的にも未熟で、試合でもよい結果は残せませんでした。今年からは学年が上がり、後輩も入ってきて新体制になります。このままの練習を続けているのなら、きっと私はまた昨年と同じ振り返りをすることになり、ほとんど成長のない1年間を過ごすことになると思います。私は常に目標を持ち続けて、これからの練習に取り組んでいこうと思います。

同窓会会長賞が柔道部に贈られる

同窓会会長賞の表彰式が昨年11月16日にオールカミングの体育館で吉田同窓会会長から中島主将に賞状並びに金一封が渡されました。今回は2年連続全日本学生柔道優勝大会に出場したことによります。

鈴木滋先輩のご逝去を悼む

木村重紀（12回）



10号館道場開きにて　2007年（平成19年）9月23日。
左から前澤泰次さん、山下佐明さん、鈴木滋さん、木村重紀

1959年（昭和34年）4月、柔道部の先輩に鈴木滋さん、山下佐明さん、柏葉秀雲さん、野中瑞穂さん、佐野清さん、川崎利美さんらがおられた。

鈴木先輩は小学生の頃から町道場（菅野洋さんも通っていた辻道場）に通われて、習得された大外刈りは強力で、東京学生柔道大会、四大戦で大いに実力を発揮されました。

体育館の倉庫だった狭い道場での厳しい練習を主将として率先されただけでなく、合宿（軽井沢、鵜原、沼津）や他大学交流戦（東大、一ツ橋大、獨協大）を計画・実行され、我々に成長の場を与えてくれました。

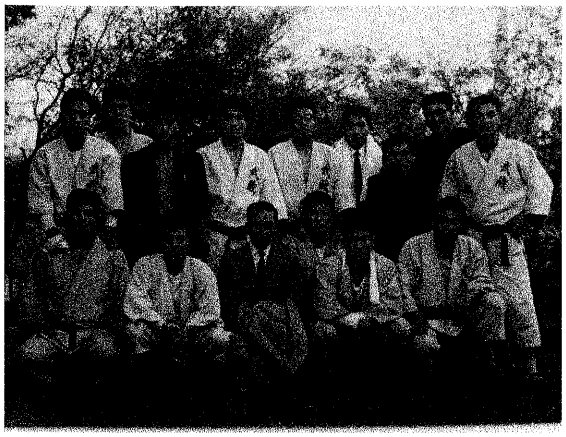
谷田製作所を定年退職後は、東京労働局の総合労働相談員として活躍されておりました。

2018年12月、すい臓がんと診断されましたが本人の強い希望で自宅療養を続けておられました。苦しむことなく、自宅で最期を迎えられたことは幸せだったのではないでしょうか、と奥様は話されておられました。

鈴木滋先輩、長い間ご指導ありがとうございました。

2019年（令和元年）9月19日
享年81歳

合掌



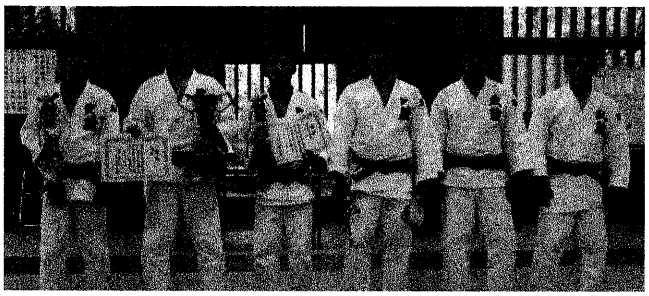
四大戦＜成城大学にて1961年（昭和36年）11月＞、岡茂男先生が応援に。真ん中で立っている眼鏡をの方が鈴木滋さん

四大学新人戦、磐石の6連覇果たす!!

四大学新人戦は令和元年6月16日、学習院大学の道場で行われ武蔵大学が磐石の6連覇を果たした。

◆第1試合
学習院大学3－2成蹊大学

◆第2試合
武蔵大学5－0成城大学
有川涼太○大外刈●柳田　航
有川、開始1分過ぎ左打ちまた仕掛ける。その後もつれて危うく態勢を崩しそうになる。応援席から「動かせ」「前後に振れ」の声。互いに膠着状態のなか、残り2秒に本部席前での小外刈りが決まり一本勝ち。技を出した後に足がそろうところが気になった一戦。
長岡　実○横四方固●鈴木　壮
飛び込んでの十字固めを狙う。審判団協議の中、試合再開。ケンカ四つにて組み合う。長岡の仕掛けた内またが危うくすかされそうになる。足払いから縺れたところを後袈裟から横四方で一本勝ち。
谷岡幸晟○背負投●會澤仁基
右の相四つ、谷岡はすぐに相手の右袖をつかみ下に崩す。相手が反発して上体を起こしたところを、開始16秒の見事な背負い投げ。下半身の安定と体捌きが勝利のポイント。
福島隼人○合せ技●坂上航太郎
開始早々大内刈りに入るも相手に持ち上げられ返されそうになる。開始39秒、大内刈りにて技あり、1分過ぎ低い姿勢からの大内刈り一閃。相手の右腿を左足踵にひっかける低い体勢からの大内刈り。合わせて一本。
田村政雄○不戦勝●



武蔵の新人戦優勝メンバー。左から福島、田村、谷岡、有川、長岡、坂上

◆第3試合
学習院大学4－0成城大学

◆第4試合
武蔵大学5－0成蹊大学
有川涼太○体落し●杉本一晟
有川開始30秒、左に回り込み体落とし。鮮やかな一本勝ち。
長岡　実○絞め技●逸見　遼
開始31秒。長岡、左内股から縺れて崩れたところを絞めながら押さえる。変形の横四方固めを狙うも締めが決まり一本勝ち。
谷岡幸晟○横四方固●高木翔吏
開始30秒、相手が右の背負いをかけるも、崩れたところを横四方固めで一本勝ち。
福島隼人○合せ技●村上優樹
開始17秒、左組からの低い姿勢からの大内刈りが技ありとなる。続けて開始56秒、相手が嫌がり後ろへ下がるところをまた、低い姿勢からの必殺の大内刈り。日頃の稽古の賜物。見事。
坂上直悟○内　股●調亮太郎
相手、1分過ぎ、場外指導を受ける。相互に引きつけあい自護体のところ、内また一閃見事に決まる。観客席から「爺ぃさんよろこんでるな！」の声。爺ぃさんとは、武蔵大学柔道部「初代OB会長」の菅野洋先輩である。

◆第5試合
武蔵大学5－0学習院大学
有川涼太○大外刈●酒井啓汰
開始20秒、有川、相手の大腰で崩され、ひやりとする場面。観客席から「有川、先に!!」との声。有川、奮起して内股、大外刈りの連続技から1分38秒。大外刈りで仕留めて一本勝ち。
長岡　実○小内刈●橋本和紀
体重100キロの相手との体重差30キロ。前に出ながら組手で優勢になる。相手の手を殺しながら足払いで攻める。右手を殺したタイミングで前に引き出し小内まきこみ。鮮やかな一本勝ち。
谷岡幸晟○横四方固●高崎栄貴
落ち着いた試合運びから開始早々の背負い投げ。相手は苦し紛れの巴投げ。もつれて素早く寝技に持ち込む。
福島隼人○不戦勝●児玉谷俊
相手負傷により試合出場なら不戦勝となる。
坂上直悟○不戦勝●

◆第6試合
成蹊大学4－1成城大学

この結果、優勝は武蔵大学、2位は学習院大学、3位は成蹊大学、4位は成城大学となった。

最優秀選手は3つの一本勝ちを収めた武蔵大学の谷岡幸晟選手が選ばれ、優秀選手には、同じく武蔵大学の有川涼太選手が選ばれた。

［総評］今回の新人戦は、成城大学と学習院大学のメンバーが5人そろわない中での戦いとなったが、小柄な本学の1年生は、崩しや作りが上手く見ていて早い決着となる試合が多かった。今後は相互に研鑽し、体力の不足をスピードや技の練度を磨いてほしい。

ここで紹介したい話があるので、紙面をお借りして紹介します。

「ここに、朝顔の鉢植えが2つある。一つには絶え間なく光を当てる。もう一つは長い時間、箱で覆って闇を与える。箱を取りさった後に、等しく光を与え続けると、蕾をつけて花が咲くのは闇を与えた方である」

また、チューリップの球根は夏の内に蕾を宿す。そのまま暖かい中で育てても開花しない。10度以下の低温に3か月から4か月晒して初めて蕾がうずき始める。長い夜を経て風雪の試練を越えて、ようやく花が咲く。

人も同じで、苦難や挫折により人が磨かれる。

（前澤俊宏／30回）

12月5日に創部65周年記念式典

今年は武蔵大学柔道部が創設されて65周年を迎えます。

今から20年前、当時の武蔵大学柔道部OB会会長・菅野洋氏の発案で創部45周年記念式典を池袋のサンシャインシティで行ったのがきっかけとなって、柔道部では菅野氏の意志を引き継ぎ、5年ごとの節目に記念式典を行っています。

今年も東京オリンピックの終了した12月5日に、大学8号館のイベントホールで記念式典の開催を予定して準備を進めております。

時期が近づきましたら、ご案内いたしますので、楽しみにお待ちください。ご出席いただけますよう、よろしくお願いいたします。